

栄養教育実習

Nutrition Teaching Practice

上村 芳枝・森田 清美

Yoshie KAMIMURA and Kiyomi MORITA

キーワード：栄養教育実習・栄養教諭制度・食育

I. 課題の設定

本研究は、平成16年度に栄養教諭制度が創設され、平成17年度より学校における食に関する指導の中核的な役割を担う栄養教諭制度が施行された。これより、本学に栄養教諭免許制度の設置経緯を明記し、栄養教育実習の授業に活かすことを目的とする。

栄養教諭制度創設の経緯には、少子高齢化などの社会構造の変動があり、食生活を取り巻く環境の変化や朝食欠食や偏った栄養摂取など、食生活の乱れ、子どもの肥満傾向、過度の痩身などの多くの課題がみられた^{1)~7)}。この課題に対して学校において食育推進を担う教育の必要性が国民的課題となった。平成8年保健体育審議会へ諮問、平成9年の保健体育審議会の答申、それまでに学校では給食の時間に、食の指導にとどまらず学校の教育活動として食の指導がされていたが、学校ごとに異なった食の指導であった。栄養教諭制度の背景には「成長期の児童・生徒の健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないと同時に、生涯にわたる食習慣の形成に影響を及ぼす、きわめて重要な課題^{8), 9)}」と、食の指導体制が求められた。平成10年中央教育審議会答申、平成16年中央教育審議会「食に関する指導体制の整備について」の答申がなされた。「子どもたちが望ましい食習慣と食の自己管理能力を身に付けられるよう、学校における食に関する指導体制を整備することが急務であり、新たに栄養教諭制度を創設し、食に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つ栄養教諭が指導にあたることができるようにすることが必要。」と提言がなされた。文部科学省では、平成16年3月「学校教育法等の一部を改正する法律案」を第159回国会に提出し、長時間の審議がされ、5月14日に可決・成立し、5月21日に公布され、法律の施行日は平成17年4月1日となった。さらに、食育の基本理念と方向性を明らかにするとともに、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために、「食育基本法」が平成17年6月10日に成立し、平成17年7月15日施行された。食に関する指導を担当する栄養教諭二種免許状を取得可能な課程の設置は、栄養士法および同法施行規則の規定により所定の栄養士の免許に必要な単位を修得あるいは修得見込みで、かつ、教育職員免許法および同法施行規則に定められた単位を修得すること。したがって、本学に栄養教諭課程を設置するには、栄養士養成施設として指定されることが前提であった。平成17年4月より、本学短期大学部総合生活デザイン学科に栄養士養成施設（定員40名）を設置できたのは、遡って、昭和42年4月に、比治山女子短期大学家政科の設置があり、中学校教諭二種免許状（家庭）が取得可能な教職科目が開設されていたことが大きい。その後、学科の名称変更は、平成6年に家政科より生活学科に、平成16年に総合生活デザイン学科となって総合生活デザイン学科170名の中に定員40名の2年制栄養士養成課程を申請することが決定された。教員・施設などの手続きがなされ、平成16年11月に厚生労働省より栄養士養成施設として指定された。それに引き続いて、文部科学省に栄養教諭課程の申請手続きが始まり、本学総合生活デザイン学科に、栄養教諭免許取得可能な所定単位の科目ならびに教員審査後、平成17年4月より栄養士養成施設設

置と同時に文部科学省より栄養教諭二種免許状取得ができる課程が認可された。さらに、平成 26 年 4 月より、本学健康栄養学部管理栄養学科が管理栄養士養成施設として認可され、栄養教諭一種免許状取得課程も開設された。この栄養教諭制度の創設にあたっては学校栄養職員諸氏の方々の 45 年間のご尽力の賜物により実現された制度であると伺っている。これらを踏まえて、食育を指導する栄養教諭一種・二種免許状の取得が可能になって、それぞれの科目はシラバスに基づいた授業が進められるようになった。

II. 栄養教諭免許に関わる教職科目

学校栄養職員は、学校給食法第 7 条の学校給食管理者「学校給食の栄養に関する専門的事項をつかさどる職員」、さらに、第 10 条第 3 項「栄養教諭以外の学校給食栄養管理者は、栄養教諭に準じて、第 1 項前段の指導を行うよう努めるものとする。この場合には、同項後段及び前項の規定を準用する。」各県ともに、学校栄養職員の中から栄養教諭への任用がなされ、広島県では平成 26 年度は 85 名が栄養教諭になっている。栄養教諭は教員免許法に基づく免許状の所持者で、学校教育法第 28 条第 8 項、第 40 条の「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことを任務とし、学校栄養職員は、栄養士法の第 2 条第 1 項の規定による栄養士の免許を有する者とされている。栄養教諭の趣旨は、食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、食生活の多様化が進む中で、朝食をとらないなど子どもの食生活の乱れが指摘されており、子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、栄養や食事のとり方などについて正しい知識に基づいて自ら判断し、食をコントロールしていく「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたちに身につけさせることが必要となっている。このため、食に関する指導（学校における食育）の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭」制度が創設された。栄養教諭の法律上の基礎資格は、学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第 2 条第 3 項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第 5 条の 3 第 4 号の規程により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第 2 条第 1 項の規程により栄養士の免許を受けていること。栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は、栄養士免許取得及び管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎・専門分野のそれぞれの区分における講義・演習・実験又は実習必修単位（82 単位）の修得とされている。

つぎに、栄養教諭の職務をみると、食に関する指導と給食管理を一体のものとして行い、地場産物を活用して給食と食に関する指導を実施するなど、教育上の高い相乗効果が期待される。食に関する指導では、肥満、偏食、食物アレルギーなどの児童生徒に対する個別指導、さらに、学級活動、教科、学校行事等の時間に、学級担任等と連携して、集団的な食に関する指導を行う。他の教職員や家庭・地域と連携した食に関する指導を推進するための連絡・調整を行う。学校給食の管理は、栄養管理、衛生管理、検食、物資管理等がある。資格には、栄養教諭普通免許状（専修、一種、二種）があり、大学における所要単位の修得により免許状を取得することが基本であるが、現職の学校栄養職員は、一定の在職経験と都道府県教育委員会が実施する講習等において所定の単位を修得することにより、栄養教諭免許状を取得できるよう法律上特別の措置が講じられている。配置について、すべての義務教育諸学校において給食を実施しているわけではないこと、また、地方分権の趣旨等から栄養教諭の配置は地方公共団体や設置者の判断による。また、公立小中学校の栄養教諭は県費負担教職員であることから、都道府県教育委員会の判断によって配置されている。身分は、公立学校の栄養教諭については、採用や研修等について養護教諭と同様の措置が講じられている。本学における栄養教諭一・二種免許状を得るために開講科目および単位数を表 1 に示す。

教職科目については、昭和 41 年 4 月より、比治山女子短期大学に中学二種免許国語、昭和 42 年、

中学二種免許家庭・美術免許を取得できる教職に関する科目が開設されていたので、教職に関する科目は、栄養に係る教育に関する科目として平成17年度より、学校栄養教育指導論、栄養教育実習（事前・事後指導を含む。）、平成26年度より、学校栄養教育実践論が開講された。

表1 栄養教諭一・二種免許状を得るための開講科目および単位数

(単位)

	科目区分・事項	本学開講科目		必要最低単位数 (かつこ内は二種の場合)
		科目名	単位数	
栄養に係る教育に関する科目 (教育職員免許法施行規則第10条の3)	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養教育指導論	2	4 (2)
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
	食生活に関する歴史的及び文化的事項			
	食に関する指導の方法に関する事項	学校栄養教育実践論	2	
教職に関する科目 (教育職員免許法施行規則第10条の4)	教職の意義等に関する科目	教職入門	2	2
	教育の基礎理論に関する科目	教育基礎論	2	6
		教育心理学	2	
		教育の制度と経営	2	
	教育課程に関する科目	教育課程論	2	6
		道徳教育の研究	2	
		教育の方法と技術	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導論	2	4
		教育相談（カウンセリングを含む。）	2	
	栄養教育実習	栄養教育実習（事前・事後指導を含む。）	2	2
教職実践演習	教職実践演習（栄養教諭）	2	2	
特に必要なものとして文部科学省令で定める科目 (教育職員免許法別表第1備考第4号、教育職員免許法施行規則第66条の6)	日本国憲法	日本国憲法	2	2
	体育	スポーツA	1	3
		ウエルネス論	2	
	外国語コミュニケーション	英語リテラシー	1	4 (2)
		英語I	1	
		英語基礎I	1	
		英会話I	1	
	情報機器の操作	コンピューターリテラシー	1	4 (2)
		情報処理演習A	1	
		情報処理演習B	1	
情報処理演習C		1		

短期大学部での開講時期は、栄養に係る教育に関する科目の学校栄養教育指導論は2セメ、講義2単位、教職科目として、栄養教育実習（事前・事後指導を含む。）は、2年次集中講義 実習2単位で、それらの担当教員は専任・非常勤教員が文部科学省の審査を受け、現在に至っている。一種免許状の科目として、学校栄養教育指導論5セメ、講義2単位、学校栄養教育実践論6セメ講義2単位、栄養教育実習集中7・8セメ、2単位である。

1) 学校栄養教育指導論

学校栄養教育指導論では栄養教諭としての使命、職務内容の重要性を理解して栄養に係る教育としての専門的な知識を習得する。食に関する指導が学校教育活動全体で行えるよう学校給食を教材とし、実践事例を学習し、自ら指導を展開できるよう問題解決型授業として、学生が教材研究を進め学習指導案に即した授業運営ができるように模擬授業を通じて児童に食の教育が指導できることを目指した学習を取り入れ、実践力を育成する。食文化の変遷や学校給食の歴史を踏まえ栄養教諭として小学校での食に関する指導のあり方を学修する。

教育目標との関連は、栄養士並びに栄養教諭免許を習得し、現場で栄養教諭として活躍できるこ

とを目標に、専門的知識・技能を身につけ、実践できるようになることを目指す。

到達目標は、栄養教諭として、食に関する指導をするには、栄養教諭の職務内容・現場での位置づけ・年間計画のあり方などを理解し食育の教科分担などを踏まえた学習指導案の作成、その食教育の模擬授業ができることを目指す。なお、この科目は栄養士免許並びに栄養教諭免許取得見込みの方の受講科目とする。

授業内容は、児童及び生徒の食に係わる諸課題並びに食文化の歴史並びに食教育の意義。栄養教諭の役割及び職務内容として児童及び生徒の栄養指導及び管理の意義・現状と課題。食に関する指導に係わる全体的な計画作成。地場産品の活用を含む給食の時間における食に関する指導。教科は、家庭科、技術・家庭科、体育科、保健体育科、国語並びに道徳などにおける食に関する指導。児童及び生徒における栄養指導及び管理に係わる社会的事情の把握や生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導。さらに、個別指導として、食物アレルギー等食に関する特別な指導や児童及び生徒への指導上の配慮事項。個別に給食の時間ならびに学級活動での中学年に向けての指導案・教材を作成し、模擬授業を行って板書、発問のあり方、授業後に学生の授業について相互に批評会をもち、意見交換をして指導案の修正をさせる。児童及び生徒の食に係わる諸課題、食文化の歴史並びに食育のあり方を考察する。家庭科、体育科、保健体育科その他教科での内容、食物アレルギー等食に関する個別指導での指導上の配慮の理論を把握する。

2) 栄養教育実習（事前・事後指導を含む。）

栄養教育実習の事前事後指導の30時間並びに40時間の小学校での教育実習がある。この科目は、栄養士免許取得見込み者であり、栄養教諭になるために教職科目並びに栄養に関わる科目の学校栄養教育論の理論の上に、栄養教諭の役割や心構えなどのほか、教育実習の評価の方法、学校現場での栄養教諭としての職務に関する教育実習を通じ問題解決ができるよう、学生が教材研究、学習指導案を作成して、45分間の授業時間に目標に沿った食育を進める授業を行い、自律的に学習する力、授業を進めるための板書計画、ワークシートの活用などの理解を深める。

事前指導は集中講義として、2セメの教科に関する知識を元に学習指導案の作成・授業観察・教材研究を重ねて、一人一人が指導案を作成できること、45分間の時間配分、授業の流れを体得するように進めた。

事後指導では、2年生の栄養教育実習報告会として、栄養教育実習先の小学校での実習内容ならびに児童との関わり、授業の進め方について、自己体験を報告書にまとめ、発表・質疑に回答して2年生から1年生に具体的に実習内容を伝えることを目的とする。1年生は報告会で実習への意識づけができ、教育実習に向けて準備ができる。2年生は栄養教育実習の反省・今後の気づきを共有しあうなど、栄養教諭の心構えを1・2年生ともに確認しあうことができる。

到達目標は、児童生徒への個別的な相談指導、教科・特別活動等における教育指導の実習、食に関する指導の連携・調整等、栄養教育実習についての理解を深めることを目指す。

授業計画では、栄養教育実習の校外実習のあり方について説明する。事前指導では、授業の進め方、学校経営、校務分掌の理解、服務等の現場でのあり方、評価の基準と方法、児童への教科・特別活動等における指導、学級活動及び給食の時間における指導のあり方、さらに、特別活動の指導案作成し、模擬授業・教材研究、学習指導計画案の作成・児童集会、委員会活動、クラブ活動における指導する。特に、実習小学校が決定したら小学校校長先生に予約のお電話をかけて事前指導を受ける。栄養教育実習では、校長先生並びに担当教諭の先生の指導を仰ぎ、学習指導案の完成・授業の実践、児童への指導を行う。教育実習録を毎日記録して指導教員の指導を仰ぎ、終了時には教育実習録に指導教員の方々の押印を受け、速やかに学習支援室に提出する。

実習の時期について、平成18年度から栄養教育実習を開始、1期生は6月、2期生より9～10月に実施した。変更した理由は、6月での栄養教育実習の事前指導を4・5月にすることは時間不足のため、2期生より9月以降とした。

3) 教職実践演習（栄養教諭）

教職実践演習では、栄養教育実習として小学校で教育実習を行なった食育を振り返り、小学校の見学、栄養教諭としての指導時での内容・態度などについて、グループワーク、デイスカッション、模擬授業を行っている。授業を振り返り、グループワークを行なうと、実習前には気づかった視点がわかり、授業を進めるには児童の受け答えをよく観察すること、学習指導案を作成するにあたり、校長先生・クラス担任の先生・栄養教諭の先生方にしっかり指導を受けることが大切である。教材研究は、児童の様子をよく観察して作成すること。さらに、給食時間の指導では、一人一人の児童の動きをしっかり観察して食育の指導をすることの大切さを実感したという意見が多かった。

Ⅲ. 広島地区栄養教育実習連絡協議会

広島地区栄養教育実習連絡協議会の会則の目的は、広島県内の公立学校における栄養教育実習の連絡協議を行い、あわせて教職課程に関する情報交換、研究活動の推進を図ることを目的とする。

この連絡協議会開設の経緯は、既存の栄養士・管理栄養士連絡協議会の中に広島地区栄養教育実習連絡協議会を含めてほしいと依頼したが、前者は厚生労働省の所管、後者は文部科学省の所管のために新たに開設された。平成18年4月より短大では栄養教育実習を小学校で実習する必要性に迫られ、広島地区の養成校の広島文教女子大学、広島女学院大学、安田女子大学、鈴峯女子短期大学、広島文化短期大学ならびに本学の6校による連絡協議会がスタートし、本学は平成18年・平成25年度に当番校を担当した。

1) 栄養教育実習の実習校

表2に短期大学部栄養教諭二種免許状取得者での実習校の教育委員会を示す。

表2 本学栄養教諭二種免許状取得者の実習校の教育委員会 (人)

年度	合計	広島市	竹原市	海田町	廿日市	大竹市	呉市	安芸府中	東広島市	三次市	安芸高田	実習(月)
平成18年	13	12	1									6月
平成19年	15	7		2	1	1	4					10月
平成20年	8	7					1					10月
平成21年	1	1										10月
平成22年	6	3					1	2				10月
平成23年	10	3			1		2		3			10月
平成24年	19	13				1	3	1	1			10月
平成25年	12	6			2	1	1		2	1		10月
平成26年	9	5				2			2			9・10月
平成27年	10	4			2				3		1	10月
計	103	61	1	2	6	5	12	3	11	1	1	

*平成27年度は見込み数

短期大学部1期生は平成18年6月、栄養教育実習を行った。実習の時間は40時間、時期は、2期生より9～10月実施。栄養士の校外実習1週間ならびに栄養教育実習の1週間、併せて2週間の実習生が多い。しかし、小学校は給食センター給食施設の場合は校外実習が別場所となった。

実習前には本学作成の実習要項を用いて事前指導をする。小学校には連絡を事前にとり、小学校に伺い、指導案の作成、教材研究などの指導を受ける。また、学生の母校が実習校とはならない。

表3に広島県の栄養教諭配置数を示す。

栄養教諭配置数は広島県では平成19年度10名より平成26年度85名になったが、学校栄養職員より栄養教諭への配置転換で、新卒者の栄養教諭の採用はされていない。そこで、広島地区栄養

教育実習連絡協議会では平成19年度より広島県教育員会に、新卒者の栄養教諭の配置ならびに小学校に栄養教諭1名の配置の依頼をしている。

表3 都道府県別栄養教諭配置人口比

no	都道府県名	平成26年度栄養教諭配置数(人)	平成26年度順位	平成24年度10月1日現在人口(単位千人)	平成24年度栄養教諭配置数(人)	人口比(10万人対)	平成24年度順位
1	北海道	430	1	5,460	426	7.8	2
2	青森県	34	40	1,350	31	2.3	40
3	岩手県	93	21	1,303	90	6.9	7
4	宮城県	69	25	2,325	65	2.8	30
5	秋田県	41	37	1,063	33	3.1	27
6	山形県	58	29	1,152	55	4.8	19
7	福島県	27	44	1,962	23	1.2	46
8	茨城県	122	12	2,943	90	3.1	28
9	栃木県	63	27	1,992	54	2.7	33
10	群馬県	51	32	1,992	41	2.1	42
11	埼玉県	201	6	7,212	187	2.6	35
12	千葉県	166	9	6,195	130	2.1	41
13	東京都	54	30	13,230	49	0.4	47
14	神奈川県	163	10	9,067	163	1.8	44
15	新潟県	141	11	2,347	132	5.6	16
16	富山県	28	42	1,082	27	2.5	36
17	石川県	60	28	1,163	54	4.6	21
18	福井県	33	41	799	32	4.0	23
19	山梨県	28	43	852	27	3.2	26
20	長野県	91	22	2,132	59	2.8	31
21	岐阜県	121	13	2,061	116	5.6	15
22	静岡県	111	14	3,735	53	1.4	45
23	愛知県	216	5	7,427	182	2.5	37
24	三重県	98	18	1,840	104	5.7	14
25	滋賀県	43	36	1,415	39	2.8	32
26	京都府	177	7	2,625	176	6.7	8
27	大阪府	427	2	8,856	420	4.7	20
28	兵庫県	335	3	5,571	331	5.9	12
29	奈良県	38	38	1,390	37	2.7	34
30	和歌山県	27	45	988	24	2.4	38
31	鳥取県	15	47	582	19	3.3	25
32	島根県	47	35	707	53	7.5	4
33	岡山県	106	16	1,936	81	4.2	22
34	広島県	85	23	2,848	66	2.3	39
35	山口県	97	19	1,431	89	6.2	11
36	徳島県	50	34	776	49	6.3	9
37	香川県	70	24	989	75	7.6	3
38	愛媛県	108	15	1,415	98	6.9	6
39	高知県	51	33	752	47	6.3	10
40	福岡県	300	4	5,085	283	5.6	17
41	佐賀県	54	31	843	48	5.7	13
42	長崎県	106	17	1,408	104	7.4	5
43	熊本県	94	20	1,807	87	4.8	18
44	大分県	22	46	1,185	24	2.0	43
45	宮崎県	64	26	1,126	44	3.9	24
46	鹿児島県	170	8	1,690	167	9.9	1
47	沖縄県	38	39	1,409	40	2.8	29
	計	5,023		127,518	4,624		
	平均	107		2,713	98.4	4.2	

人口：総務省

栄養教諭数：スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育企画室

表 4 栄養教育実習での指導案

年	no	実習小学校	科目	学年	食育の内容(めあて)
平成23年	1	呉市立横路小学校	学級活動	1学年	やさいともだちになろう
	2	広島市立仁保小学校	学級活動	1学年	すききらいしないでたべよう
	3	広島市立仁保小学校	学級活動	1学年	やさいのはたらきをしろ
	4	東広島市立三ツ城小学校	学級活動	2学年	やさいのひみつを知ろう
	5	東広島市立三ツ城小学校	学級活動	5学年	元気でじょうぶな体をつくろう
	6	東広島市立三ツ城小学校	学級活動	5学年	丈夫な骨をつくろう
	7	広島市立伴小学校	特別活動	4学年	好き嫌いせず食べよう
	8	呉市立白岳小学校	特別活動	2学年	ほねやはを作る食べもののひみつを知ろう
	9	廿日市市立阿品台東小学校	学級活動	6学年	給食を親しもう
	10	海田町立海田東小学校	学級活動	5学年	旬の野菜を食べよう
平成24年	1	広島市立宇品東小学校	学級活動	4学年	野菜のひみつを知ろう
	2	広島市立宇品東小学校	学級活動	4学年	野菜のひみつを知ろう
	3	広島市立庚午小学校	学級活動	1学年	やさいはかせになろう
	4	広島市立庚午小学校	学級活動	1学年	やさいはかせになろう
	5	東広島市立中黒瀬小学校	学級活動	5学年	元気が出る食事をしよう
	6	広島市立戸坂小学校	学級活動	6学年	野菜のひみつを知ろう
	7	広島市立戸坂小学校	学級活動	6学年	野菜の秘密を知ろう
	8	広島市立皆実小学校	家庭科	6学年	くふうしよう楽しい食事
	9	広島市立皆実小学校	家庭科	6学年	くふうしよう楽しい食事
	10	呉市立白岳小学校	特別活動	1学年	やさいはかせになろう
	11	呉市立白岳小学校	特別活動	1学年	やさいはかせになろう
	12	呉市立呉中央小学校	学級活動	2学年	1日のスタートは朝ごはんから
	13	広島市立東野小学校	学級活動	2学年	やさいのひみつを知ろう
	14	広島市立東野小学校	学級活動	5学年	米の働きを知ろう
	15	府中町立府中中央小学校	学級活動	1学年	ぎゅうにゅうのひみつをだいはっけん
	16	広島市立落合小学校	学級活動	3学年	三色そろった朝ごはんを食べよう
	17	広島市立落合小学校	学級活動	3学年	三色そろった朝ごはんを食べよう
	18	大竹市立大竹小学校	学級活動	2学年	やさいはかせになろう
	19	広島市立安北小学校	学級活動	4学年	カルシウムをしっかりとう
平成25年	1	広島市立川内小学校	特別活動	6学年	牛乳のひみつを知ろう
	2	広島市立川内小学校	特別活動	6学年	給食の大切さを知ろう
	3	広島市立皆実小学校	学級活動	3学年	地場産物について知ろう
	4	広島市立皆実小学校	学級活動	4学年	野菜はかせになろう
	5	東広島市立西条小学校	学級活動	5学年	目を大切にするにはどうしたらよいか考えよう
	6	東広島市立西条小学校	学級活動	5学年	目を大切にするにはどうしたらよいか考えよう
	7	廿日市市立大野西小学校	特別活動	6学年	野菜を食べよう
	8	廿日市市立大野西小学校	学級活動	6学年	バランスの良い食事を知ろう
	9	呉市立白岳小学校	学級活動	2学年	元気な歯や骨を作る食べ物を発見し、どうしたらよいか考えよう
	10	三次市立八次小学校	学級活動	4学年	野菜のひみつをさぐる
	11	大竹市立小方小学校	学級活動	3学年	やさいパワーを「いただきます」
	12	広島市立戸坂小学校	学級活動	3学年	野菜を食べよう食べて元気にすごそう
平成26年	1	広島市立翠町小学校	学級活動	3学年	食物繊維を知ろう
	2	広島市立川内小学校	学級活動	3学年	朝食の大切さを知ろう
	3	広島市立口田東小学校	学級活動	4学年	野菜のひみつをしろ
	4	広島市立梅林小学校	学級活動	5学年	米について知ろう
	5	広島市立梅林小学校	学級活動	5学年	お米の秘密を知ろう
	6	大竹市立小方小学校	特別活動	1学年	野菜のヒミツをしろーピーマンパワーについて知ることができる
	7	大竹市立小方小学校	特別活動	4学年	カルシウムをたくさんとう
	8	東広島市立高屋西小学校	学級活動	4学年	おやつは量とを考えて食べましよう
	9	東広島市立高屋西小学校	学級活動	3学年	どうして朝ごはんを食べるの？

表 4 に、栄養教育実習での指導案の題材名を示す。平成 23 年度より平成 26 年度では、学級活動、特別活動、家庭科の科目であった。学年は 3・4 年生の中学年が多かった。食育の内容について、野菜に関する食育が多かった。

IV. 学生の栄養教諭に関する意識調査

栄養士・管理栄養士養成校の 2・4 年生にアンケートを依頼し、協力の得られた 10 名、53 名の調査結果、ならびに比較のために調査結果^{10)~12)}を表 5 に示す。栄養教諭の免許志望は約 30%、栄養教諭などの職業に就きたいと思った時期は、高校生 60~80%、具体的に栄養教諭免許をしたと思った時期は、大学に入学後に知った 20~50%、免許を取得したい理由には栄養士・管理栄養

養士のみでの就職では難しい7～20%、就職については栄養教諭になれたらいい13～50%であった。食育の言葉を知っている者は80～100%であった。

表5 栄養教諭に関する調査結果

項 目		(%)		
		管理栄養 学科	栄養士養 成	調査結果
		53	10	
性別	男子	11.3	0.0	
	女子	90.6	100.0	
学年	1年	101.9	100.0	
修得したい資格	栄養士	0.0	100.0	
	管理栄養士	96.2	30.0	
	その他	0.0	0.0	
つきたい職業	栄養士	9.4	0.0	64.3
	管理栄養士	100.0	0.0	0.0
	栄養教諭	28.3	30.0	25.7
	その他	1.9	0.0	15.7
その職業につきたい と思った時期	小学校	0.0	10.0	2.9
	中学校	22.6	0.0	1.9
	高校	56.6	80.0	68.6
	大学	11.3	0.0	5.7
	その他	11.3	10.0	10.0
栄養教諭の資格をい つ知った	中学3年	13.2	0.0	1.4
	高校1年	17.0	20.0	0.0
	高校2年	11.3	10.0	7.1
	高校3年	20.8	30.0	48.6
	社会人	0.0	0.0	1.4
	入学後	30.2	40.0	41.4
	入学後の説明会	22.6	30.0	50.0
情報源	高校の先生	22.6	0.0	17.1
	進路に関する情報	30.2	30.0	12.8
	本学の進学説明会	11.3	0.0	12.8
	テレビなどのメディア	0.0	10.0	2.9
	本学のパンフレット	7.5	30.0	1.4
	職場	1.9	0.0	1.4
	高校2年	5.7	10.0	2.9
栄養教諭免許を取得 したいとおもった時 期	高校3年	34.0	40.0	28.6
	入学後	34.0	50.0	65.7
	職場	3.8	0.0	1.4
	取れる資格なら何でも	30.2	40.0	37.1
免許をとりたい理由	食に関する教育をしたいから	20.8	10.0	34.3
	栄養士・管理栄養士の資格だけでは就職が難しいと思ったから	7.5	20.0	22.9
	教科はともかく教員になりたかったから	3.8	0.0	4.3
	就職時の選択が広がる	17.0	30.0	1.4
	就職先の一つとして考えている	22.6	20.0	50.0
現在、栄養教諭にな りたいと思う程度	なれたらいい	26.4	20.0	17.1
	資格だけでいい	13.2	50.0	17.1
	絶対なりたい	0.0	10.0	11.4
	他の就職ができなければなってもいい	13.2	0.0	4.3
	知っている	81.1	100.0	77.1
食育の言葉	知らない	5.7	0.0	11.4
	給食の時間における食指導	37.7	60.0	84.3
栄養教諭としての仕 事	学校給食と望ましい食習慣の形成	28.3	40.0	85.7
	食に関する指導を、学校の授業として児童・生徒に指導	26.4	60.0	77.1
	健康や安全に気をつけ、規則正しい生活をするための指導	22.6	30.0	78.6
	児童・生徒の健康と食事の指導	20.8	70.0	85.7
	料理クラブの指導	17.0	20.0	55.7
	発育と食事についての指導	17.0	10.0	81.4
	調和のよい食事の取り方について指導	15.1	10.0	84.3
	食料生産に従事している人々の工夫について指導	15.1	20.0	27.1
	野菜の栽培、食に関する学校行事の指導	13.2	30.0	81.4
	食に関する指導を充実するため、家庭や地域との連絡・調整をする	13.2	20.0	45.7
	給食の時間における配膳指導	9.4	30.0	58.6
	総合的な学習の時間に、健康と食に関する指導	7.5	20.0	71.4
	食料生産と国民の食生活について指導	7.5	10.0	35.7
	日常食の調理について指導	5.7	20.0	75.7
	給食の時間に後片づけ指導	3.8	20.0	54.3
	給食委員会の指導	0.0	10.0	25.7

さらに、栄養教諭として取り組みたい仕事をみると、給食の時間の指導、食習慣の形成、児童・生徒の健康、野菜の栽培などに関心を持つことがわかった。栄養教諭制度が創設されたのは、少子高齢化などの社会構造の変動があり、食生活を取り巻く環境の変化が子どもの食生活に朝食欠食や偏った栄養摂取などの食生活の乱れ、肥満傾向、過度の痩身などの多く健康問題が認められ、食育の指導が期待されていることが認められた。

V. 考 察

栄養教諭制度実現まで45年間と栄養教諭実現感謝の会の報告があるが、学校栄養職員を始めとする関係者の活動の結果に誕生した栄養教諭制度は誕生して10年を迎える。

全国の栄養教諭配置数は5023名で、昨年度と比較して399名が増えた。しかし、広島県では、平成19年度10名より平成26年度85名に増えたものの、すべて学校栄養職員が栄養教諭としての再採用である。近い将来、新卒の栄養教諭の誕生を期待し、食育の指導の世代の引き継ぎが望まれる。

実習先の小・中学校には自校式給食施設があって食育の指導者である栄養教諭が担当し、実習生は教育指導の指導を受けて、自分が栄養教諭になることを望む者が年々増えている。学生の実習校は近隣の教育委員会を通じて連絡協議会において配置先を協議・決定している。その決定の時期は、前年度の夏季に、当番校が希望をまとめ、会員間での協議し、当年度の4月に決定している。栄養教育実習を希望する学生は教員免許を目指す者として、前向きに積極的に勉学に励むようにと指導を進めている。多くの学生は、中学年の小学生に、学級活動の時間での食育の授業を受けさせてもらっている。巡回指導に当たり校長先生・教頭先生をはじめとしてクラス担任の先生、栄養教諭の先生より指導を受けている。事前・事後指導と併せて学生の学習状況をシラバスに則して評価をする。事前指導では学生が食育の学習指導案を作成できる能力と45分間の授業を時間どおり進め時間配分、板書計画、発問の仕方、ワークシートの利用などのスキルを身につけて、児童が意欲・関心をもち、児童の活動に合わせた指導の進め方を理解し、自ら工夫する能力を磨いていくように授業を進めていきたいと考えている。実習後には、一段とたくましく成長した様子が見受けられる。現在は、小学校の時間割には食育の時間はない。従って、食育の教科書はないが、平成28年度に使用開始を目指して検討委員会が平成25年度「今後の学校における食育の在り方に関する有識者会議」で最終報告がされた。今後、益々、栄養教諭としての食に関する指導の場が求められることが期待されているので、食育の目標である、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化の6つに関する授業の進め方を学生と共に深めていきたいと思う。知育・体育・徳育の基盤となる食育の重要性を伝え社会に貢献できる栄養教諭養成が継続できることを使命としていきたい。

V. 今後の課題

平成17年度以降、食育への期待は高い。ことに、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課の報告書によると、食育の推進として学校における食育のあり方に関する有識者会議の最終報告として、スーパー食育スクール、地域と連携し食育を重点的に推進するモデル校をして、栄養教諭を中心に外部専門家などと、予め具体的な目標を設定した上、大学、企業、農林・保健部局の行政機関、生産者等と連携し、児童・生徒の食育を通じた学力向上、健康増進、地産地消の推進、食文化理解、国際交流など、食育の多角的効果について科学的データに基づいて検証を行い、食育の一層の充実を図る事業がされている。平成26年度指定校として、小学校26校、中学校8校、高等

学校 5 校，中高一環校 3 校の 42 校が選出されている。スーパー食育スクールの成果をわかりやすく示し，普及啓発することで，食育のより一層の充実を図ることを目指す事業である。さらに，「食育の教科書」は，有識者会議の指摘，食生活や栄養，食文化，健康と運動，食ロス，日本の食料生産・自給率，食への感謝の心などの食育を多角的にとらえた内容，生活科・家庭科・保健体育・社会科・理科なども含め食に関連する内容を整理，食育の推進にあたり，保護者にとってもこの教材を通じて食育についての理解が進むような取組を学校が行うことなどの検討委員会が設置され，平成 28 年度使用開始を目指して検討されている。現在，学校給食の実施率は完全給食 98.2%，捕食給食 0.5%，ミルク給食 0.5% で計 99.2% と報告された。学校給食は，栄養バランスのとれた食事を取り，児童生徒の心身の健康に資するとともに，心身の健全な発達となる教育的意識がある。そのことは給食を食べる経験が生涯を通じて，給食のような主食・主菜・副菜・ミルクの料理が揃った食事内容が望ましいことを食べることを通じて食育への理解を深めていく態度を習得することが望まれる。さらに，栄養教育連絡協議会は，栄養教諭養成校として新卒者が栄養教諭に配置されるべく，広島県教育委員会に毎年，陳情活動を進めている。中・四国での栄養教諭の教員採用試験は，広島県は 0 名である。学校栄養職員と栄養教諭の相違点の明確化，児童・生徒に対して食育を実践しての教育的効果を調査などにより明らかにすることが必要であるとの意見があった。今後，栄養教育実習連絡協議会活動の業務を継続していきたい。

本研究をまとめるに当たり，調査にご協力いただきました皆様に厚く深謝申し上げます。

文 献

- 1) 金田雅代編：三訂栄養教諭論理論と実際，建帛社（2012）
- 2) 上田秀樹，山本早紀子，西條千知，辻 庸子，吉田 智子：栄養教諭制度における栄養教育実習の現状と課題，大阪樟蔭女子大学論集，46，63～76（2009）
- 3) 宮丸慶子，富岡和久，田中弘美：栄養教育実習に関する一考察，北陸学院短期大学，39，151～160（2007）
- 4) 三田村 理恵子：保育園児および保護者に対する食育支援活動プログラムの開発，藤女子大学人間生活学部紀要，50，45～51（2015）
- 5) 曾我部夏子，篠原能子，西山一朗：食育イベントに参加した小中学生の食生活に対する意識の検討，駒沢女子大学，19，339～344（2012）
- 6) 平化恵美子：食育に関する女子短大生の意識について，甲子園短期大学紀要，32，81～85（2014）
- 7) 高橋睦子，山本玲子：子どもの食事の準備や後片付けと関連する家庭内因子について，尚絅学院大学紀要，66，61～73（2013）
- 8) 食育基本法（2005）
- 9) 文部科学省：食に関する指導の手引一，第一次改訂版一（2010）
- 10) 鎌田久子，相川りゑ子：食事づくり効力感に関連する要因の検討，大妻女子大学家政系研究紀要，49，17～24（2013）
- 11) 山岸博美：短期大学生における栄養教諭に関する意識調査，富山短期大学紀要，49，（2014）
- 12) 大橋伸次：栄養教諭志望者の意識について，国際学院埼玉短期大学研究紀要，27，127～130（2006）